

避難所におけるDVT（深部静脈血栓症）予防のための施策の充実について

関 東 部 会 提 出
説明担当 鴻巣市

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震に対し、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会が臨床検査技師を派遣し、避難所にてDVT検診が行われました。DVTが疑われるとDダイマー検査が行われます。Dダイマーとは、血栓が溶解された時にできる物質で、その濃度が高いと血栓が存在していたことを示します。今回の検査でDダイマーの値が $4\mu\text{g}/\mu\text{l}$ （*1）以上で振り切れる被災者が続出したことはこれまでにないとのことでした。原因は、避難所にベッドが無く、直接床に毛布を敷いて寝ていたことによるもので、75才のある男性は、下腿静脈から大腿静脈まで広範囲に血栓が認められました。DVTは肺塞栓症にもなりますが、早く治療すれば血栓は消えるとのことでした。

このことから、避難所では段ボールベッド等を使用することと、DVT検診を実施することが大切であることから、下記事項について要望いたします。

記

避難所におけるDVT検診の導入について自治体に対し周知すること、及びDVTを発症させないためにも避難所開設当初から段ボールベッド等の簡易ベッドの迅速な設置を引き続き周知するとともに、これらに対する財政的支援を充実させること。

（*1） $\mu\text{g}/\mu\text{l}$ （マイクログラム パー マイクロリットル）